

列車火災の原因は・・・ - 西日本防災システム

2013 07 06

2012年1月 富山地方鉄道立山駅で、電鉄富山行き2両編成の電車の先頭車両から出火した火災で、国土交通省運輸安全委員会は、積雪した上り坂を走行した際、モーターに負荷がかかり、電流を調整する「抵抗器」が過熱し、発火原因となった可能性が高いとする報告書を公表したようです。

報告書によりますと、事故当日の昨年1月4日朝、列車が立山駅到着後、折り返し運転の準備をしていた運転士が床下の出火を発見しました。先頭車両の座席などが焼けましたが、運転士と乗客5人にけがなどはありませんでした。

当日の駅周辺の積雪は前年より20センチ以上深い80センチで、事故車両は同駅まで上り坂が続く約24キロの区間を積雪を押しながら走行したようです。2両編成のうちモーター付き車両は1両だけで、モーターへの負荷が大きくなっていったと考えられるそうです。富山地鉄は事故後、再発防止策として、積雪期はモーター付き車両2両を接続した編成とし、抵抗器近くに不燃性の保護板を設置する対策を取っているそうです。



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

